



令和5年7月5日

国土交通省関東地方整備局

千葉国道事務所

東日本高速道路株式会社関東支社

千葉工事事務所

圏央道（大栄JCT～松尾横芝IC）連絡調整会議の結果について

～国道468号首都圏中央連絡自動車道（大栄JCT～松尾横芝IC）～

首都圏中央連絡自動車道（大栄JCT～松尾横芝IC）の現在の進捗状況等について、国土交通省、東日本高速道路株式会社及び千葉県で情報共有を図るため、連絡調整会議を設置し、連絡調整会議（第1回）を開催した結果をお知らせします。

令和5年7月5日に開催した「首都圏中央連絡自動車道（大栄JCT～松尾横芝IC）連絡調整会議（第1回）」の開催結果をお知らせします。

会議の概要は以下のとおりです。

開催日時 令和5年7月5日（水）10時から11時

開催場所 国土交通省関東地方整備局千葉国道事務所 302会議室

構成機関 国土交通省関東地方整備局千葉国道事務所
千葉県県土整備部道路計画課
東日本高速道路株式会社関東支社千葉工事事務所

議事概要 別添のとおり

<発表記者クラブ> 竹芝記者クラブ 神奈川建設記者会 千葉県政記者会

<問い合わせ先>

国土交通省 関東地方整備局 千葉国道事務所

電話：043-287-0311（代表）

副所長 山本 裕一（やまもと ゆういち） メールアドレス：ktr-chibaa60@mlit.go.jp

東日本高速道路株式会社 関東支社 千葉工事事務所

電話：043-350-3321（代表）

副所長 今藤 健一（こんどう けんいち）

首都圏中央連絡自動車道（大栄 J C T ～松尾横芝 I C）連絡調整会議（第 1 回） 議事概要

1. 日時

令和 5 年 7 月 5 日（水） 1 0 時から 1 1 時

2. 出席者

国土交通省 関東地方整備局 千葉国道事務所長 藤井 和久

千葉県 県土整備部 道路計画課長 横田 彰洋

東日本高速道路株式会社 関東支社 千葉工事事務所長 笹原 壮雄

3. 議事

（1）現在の進捗状況について

（2）課題と対応について

（3）今後の開通見込みについて

4. 議事概要

(事業者より説明)

○現在の進捗状況、課題と対応

- ・用地取得率は、現在約99%であり、用地残件については任意解決に至らなかったため、用地取得に向け手続き中。
- ・工事は、用地未取得箇所を除く全区間で着手し、各自治体の協力のもと、鋭意実施中。
- ・芝山トンネルは、砂質土で形成された地質構造であり、掘削開始後、天端部からの抜け落ち等が発生しており、より強度が低くなる区間の掘削における安全対策を検討するために、有識者による芝山トンネル技術検討会を開催し、現計画の補助工法の検証、追加の補助工法の必要性等を確認。
- ・掘削の施工に先立ち地質調査を実施したところ、環境基準を超える重金属が検出されたため工事を一部中止しており、今後土壌汚染対策法の手続きを踏まえ工事を再開する予定。
- ・機能補償道路工事（跨道橋）において入札不調が発生し、工事着手に至っていない状況。

○今後の開通見込み

- ・用地未取得箇所、芝山トンネルの掘削、重金属の対応及び機能補償道路工事（跨道橋）の入札不調など工事進捗に影響が出ていることを踏まえ、現時点において全体事業工程を正確に見通すことは困難。
- ・そのため、開通見込みを現在の令和6年度から見直し、新たな開通見込みについては、工事の状況を踏まえて改めて公表する。
- ・引き続き、各自治体の協力のもと、事業を進めるとともに、開通見込みに関わる新たな課題等が発生した場合、速やかに情報共有を図る。

(千葉県からの意見)

- ・圏央道沿線市町で構成する「建設促進協議会」及び県内の経済団体等で構成する「圏央道建設促進県民会議」は、圏央道の一日も早い全線開通を望んでいる。
- ・工事を安全に進める必要があるなど、やむを得ない事情は理解するものの、令和6年度の大栄JCT～松尾横芝IC間の開通が困難になったことは非常に残念である。
- ・引き続き、県も沿線市町とともに最大限協力するため、1日も早い開通を目指し事業を推進してほしい。

首都圏中央連絡自動車道（大栄JCT～松尾横芝IC） 連絡調整会議（第1回）

説明資料

令和5年7月5日

国土交通省関東地方整備局
千葉国道事務所
東日本高速道路株式会社関東支社
千葉工事事務所

<目次>

- 1．現在の進捗状況について
- 2．課題と対応について
- 3．今後の開通見込みについて（別紙）

現在の進捗状況について



凡例： - - - : 土工区間 — : 橋梁区間 — : トンネル区間
※本体工の施工区分であり、舗装・施設については、全線NEXCO施工

用地及び工事進捗

- 平成25年度より用地取得着手。用地取得率は現在約99%（令和5年6月末時点）
用地残件については任意解決に至らなかったため、用地取得に向け手続き中
- 大栄～松尾横芝間18.5 kmのうち、用地未取得箇所を除く全区間で工事着手中

凡例：

用地取得済及び本線工事着手区間

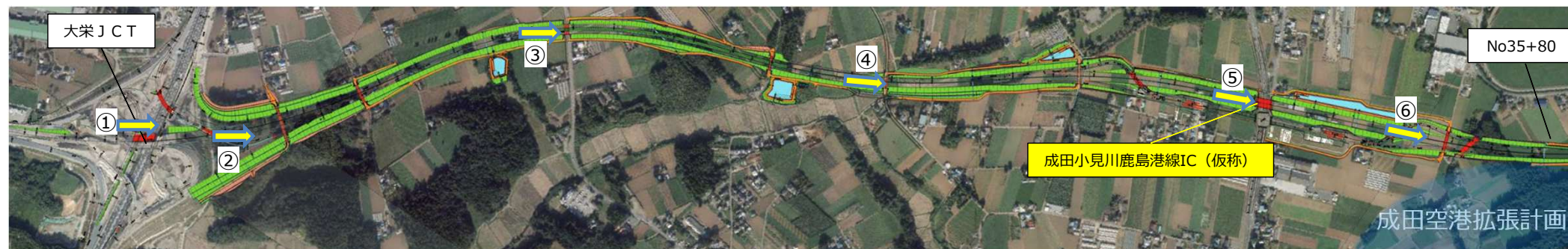
用地未取得及び一部工事未着手区間

施工区分 (本体工)	NEXCO			国	NEXCO				
工事状況	土工 (施工中)			土工 (施工中)	土工 (施工中)	トンネル工 (施工中)	土工 (施工中)	上部工 下部工 (施工中)	土工 (施工中)
用地状況	※用地取得に向け手続き中								

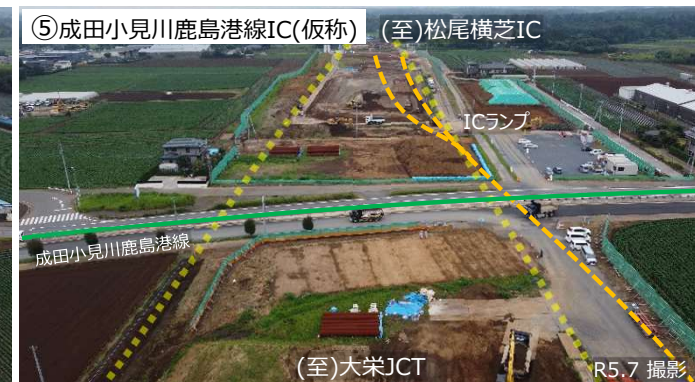
※用地取得に向け手続き中

現在の進捗状況について（現況写真①）

■ 工事進捗状況（NEXCO施工区間：大栄JCT～No35+80）



出典：国土地理院



現在の進捗状況について（現況写真②）

■ 工事進捗状況（国施工区間：No35+80～No83+00）



出典：国土地理院

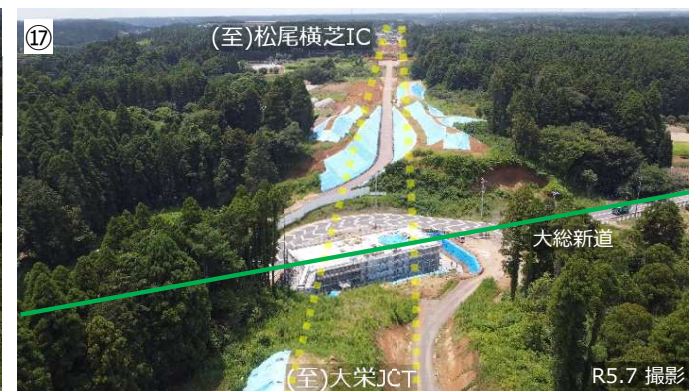
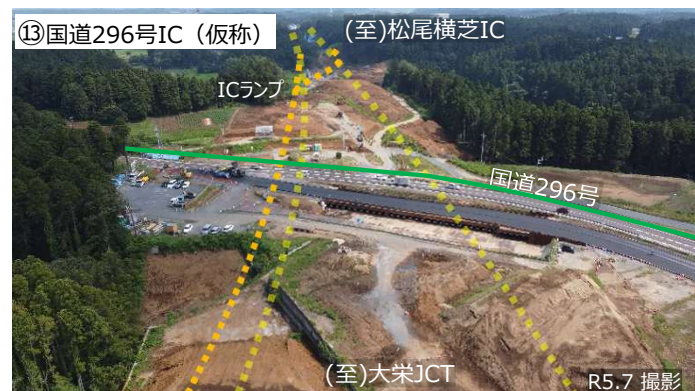


現在の進捗状況について（現況写真③）

■工事進捗状況（NEXCO施工区間：No83+00～松尾横芝IC）

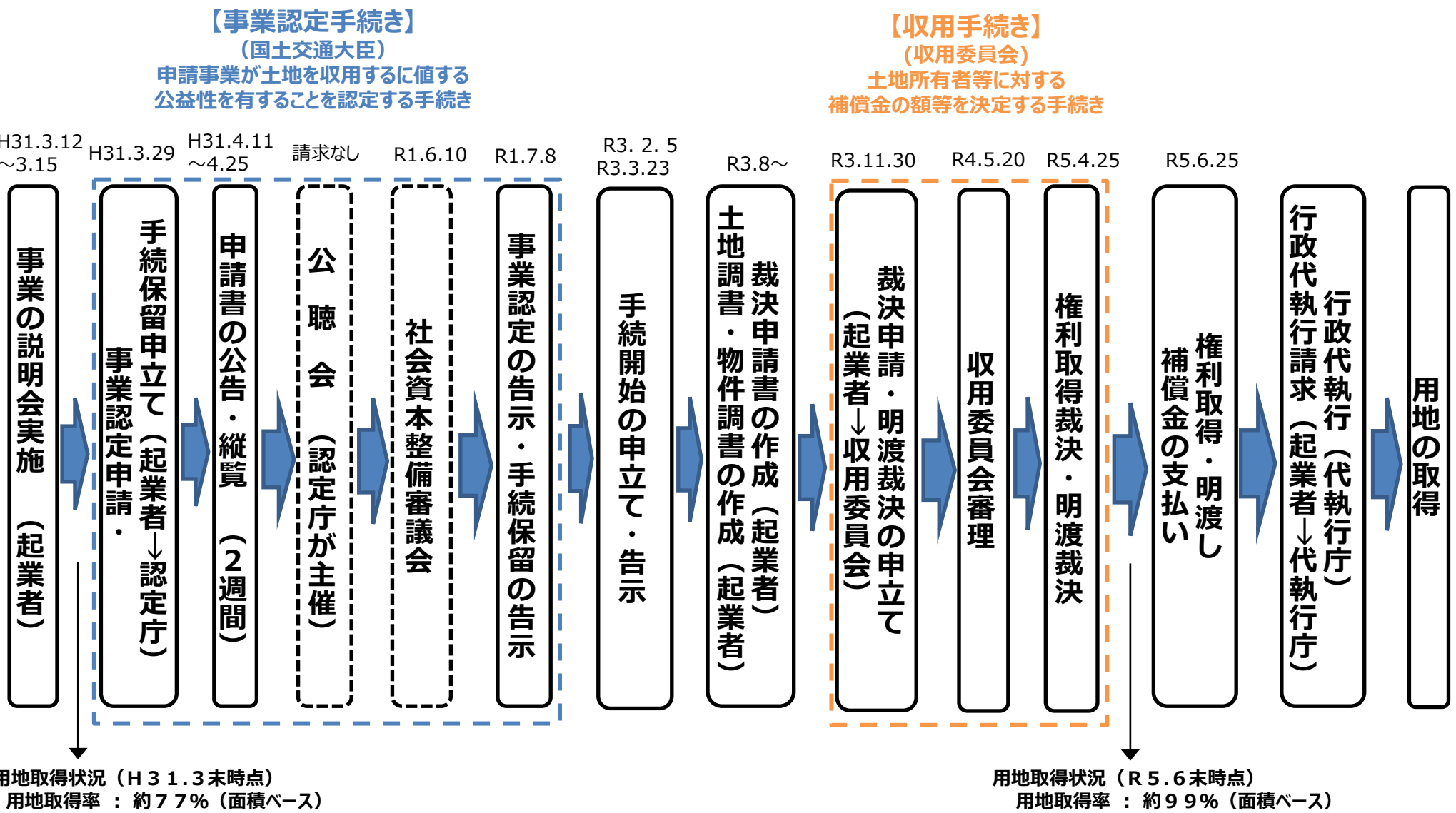


出典：国土地理院



課題と対応について①

収用手続きについて



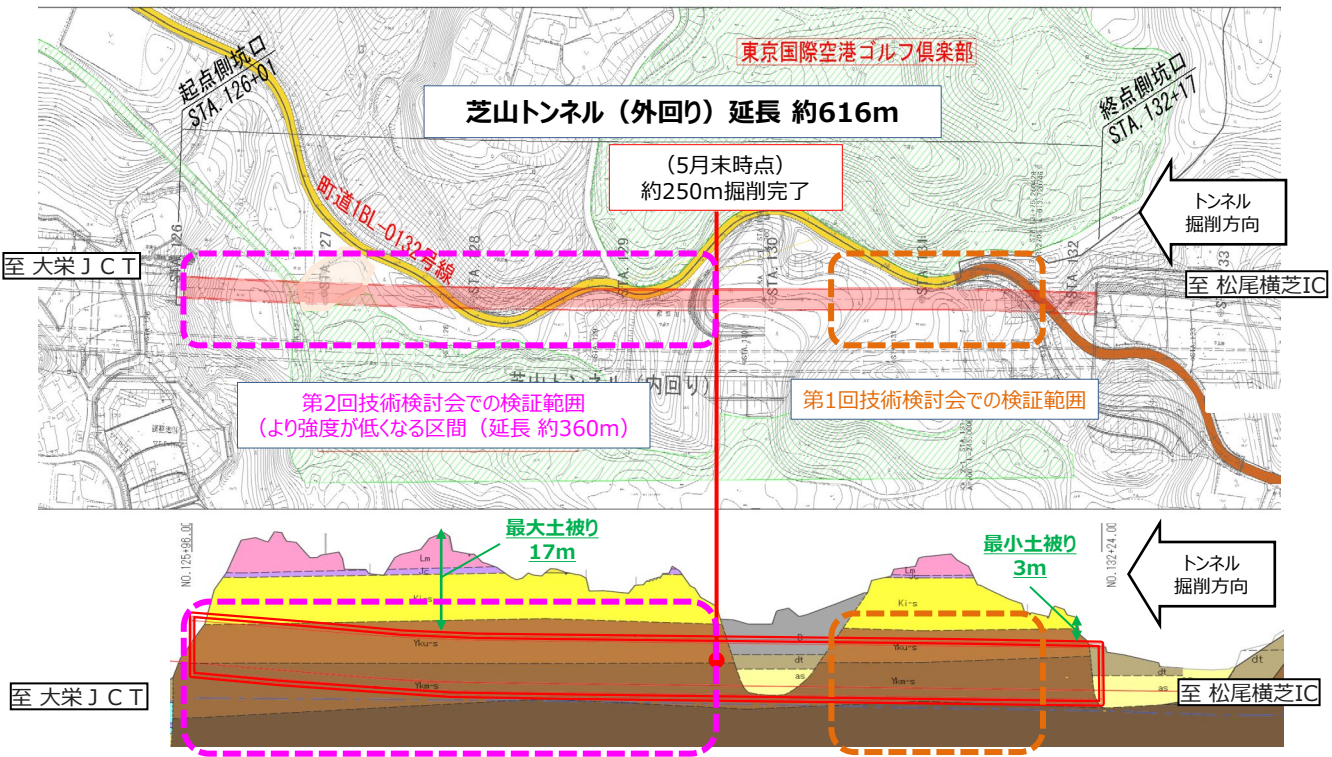
課題と対応について②

芝山トンネル技術検討会について

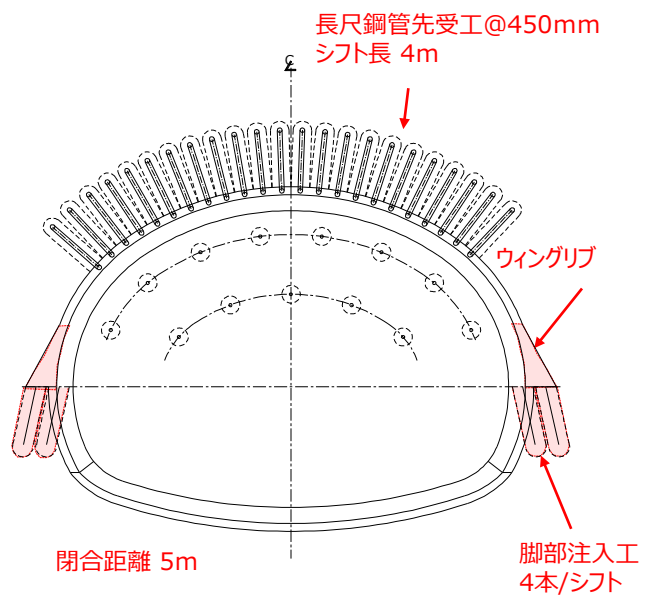
- 芝山トンネルは、砂質土で形成された地質構造（流砂現象※を引き起こす可能性あり）
- 土被りは、約3～17m程度（平均約10m）の低土被りのトンネル
- R5.1より砂地山の掘削開始後、天端部からの抜け落ち等が発生しており、より強度が低くなる区間の掘削における安全対策を検討するために、第1回技術検討会を開催（令和5年3月3日開催）
- より安全に掘削を進めるため、これまでの砂地山の掘削状況等を踏まえ、第2回技術検討会（令和5年6月13日開催）にて、現計画の補助工法の検証、追加の補助工法の必要性等を確認

※流砂現象のイメージは『砂時計』。流砂現象を止められないと、落ち切るまで対応が不可能となり、砂の特徴から煙突状に砂層を緩めることになる

《掘削断面における天端抜け落ち状況》



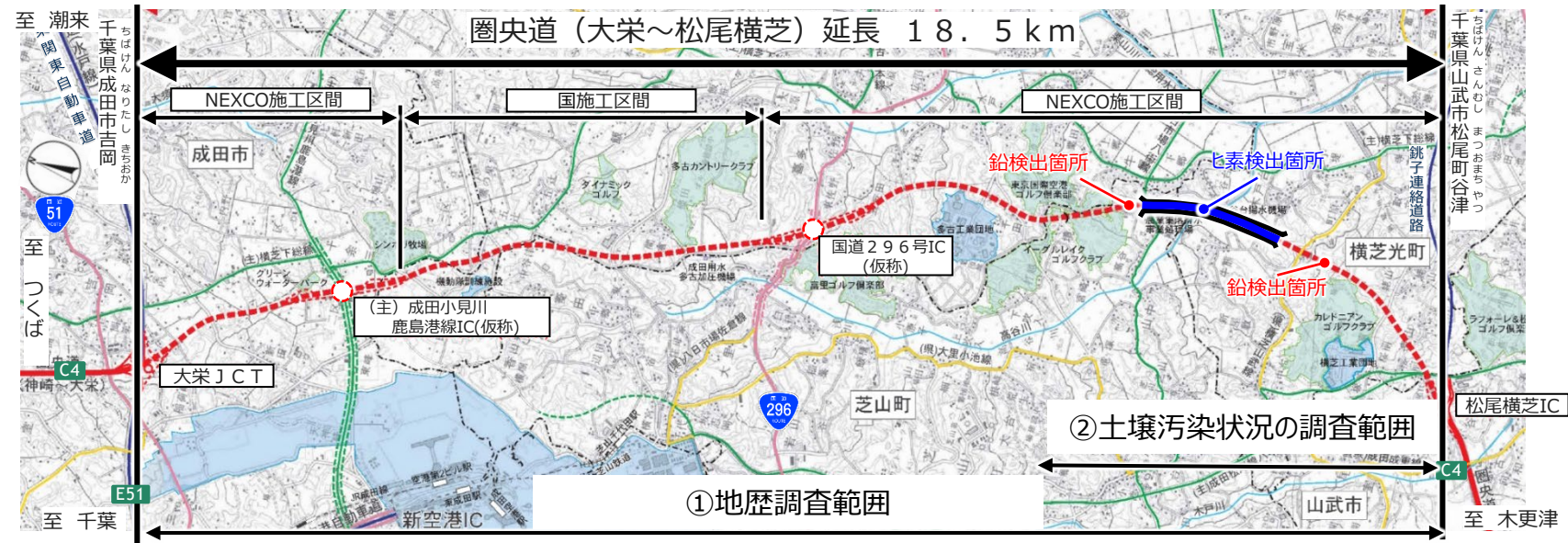
【追加補助工法断面図】



課題と対応について③

重金属検出に伴う調査等について

- 掘削の施工に先立ち地質調査を実施したところ、環境基準値を超える重金属（鉛・ヒ素）を検出したため、工事を一時中止
- 関係機関と調整しながら、重金属の分布状況の確認や対応を実施
- 圏央道全線（大栄～松尾横芝：延長18.5km）の地歴調査を実施した結果、当該物質（鉛、ヒ素）は、自然由来によるものであることを確認
- 今後、土壌汚染状況の調査結果、千葉県による区域指定など、土壌汚染対策法の手続きを踏まえ工事を再開する予定



土壌汚染状況調査結果（土壌溶出量試験）

物質名	調査結果	環境基準
鉛	0.012～0.016mg/L	0.01mg/L
ヒ素	0.012～0.16mg/L	0.01mg/L

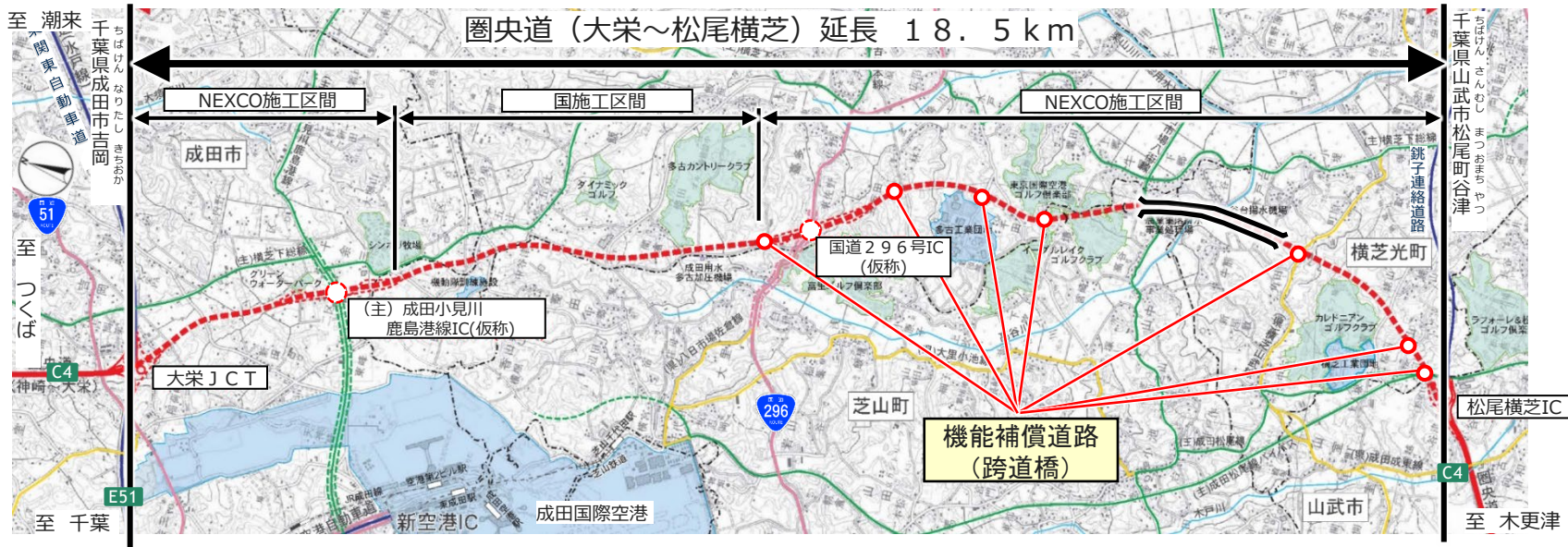
試料採取状況



課題と対応について④

機能補償道路（跨道橋）の入札不調について

- 機能補償道路（跨道橋）の工事発注手続きにおいて、入札不調が発生
- 入札不調となった工事において、現在、工事着手に向け契約手続き中



機能補償道路（跨道橋）イメージ



東関東自動車道（鉾田～茨城空港北）

(別紙)

○用地買収、改良工事、トンネル工事などを実施しているところだが、用地未取得箇所、芝山トンネルの掘削、重金属の対応及び機能補償道路工事（跨道橋）の入札不調など工事進捗に影響が出ていることを踏まえ、現時点において全体事業工程を正確に見通すことは困難であり、引き続き精査が必要な状況
○そのため、開通見込みを現在の令和 6 年度から見直し、新たな開通見込みについては、工事の状況を踏まえて改めて公表する

